

科目	情報処理II (Information Processing II)		
担当教員	赤松 浩 准教授		
対象学年等	電気工学科・3年・前期・必修・1単位 (学修単位I)		
学習・教育目標	A3(100%)		
授業の概要と方針	2年次の情報処理Iで学んだC言語の基礎を発展させた内容を講義する。関数およびファイル操作を学習し、応用的なプログラムの作成を行う。		
	到達目標	達成度	到達目標別の評価方法と基準
1	[A3]関数の構造を理解し,これを用いたコードが書ける.		関数の構造を理解し,これを用いたコードが書ける.かを前期中間試験およびレポートで評価する.
2	[A3]構造体の構成を理解し,これを用いたコードが書ける.		構造体の構成を理解し,これを用いたコードが書けるかを前期中間試験およびレポートで評価する.
3	[A3]ファイルに対する操作をプログラミングでき,ファイルから自在にデータを読み込んだり書き込んだりできる.		ファイルに対する操作をプログラミングでき,ファイルから自在にデータを読み込んだり書き込んだりできるかを前期定期試験およびレポートで評価する.
4	[A3]これまで学んだ構文を利用し,応用的なプログラムが作成できる.		これまで学んだ構文を利用し,応用的なプログラムが作成できるかを前期定期試験およびレポートで評価する.
5			
6			
7			
8			
9			
10			
総合評価	成績は,試験85% レポート15% として評価する.総合評価を100点満点として,60点以上を合格とする.		
テキスト	「初級C言語やさしいC」:後藤良和ら(実教出版株式会社)		
参考書	「C言語プログラミングレッスン入門編」:結城浩(Softbank) 「やさしいC」:高橋麻奈(SB Creative)		
関連科目	E1:情報基礎,E2:情報処理I		
履修上の注意事項			

授業計画(情報処理II)

	テーマ	内容(目標・準備など)
1	基礎C言語プログラムの復習	2年次に学習したC言語プログラムの基礎を復習し,基礎的なプログラムが作成できること.
2	関数1	関数の基礎を理解し,関数を作成するコードが書けるようになる.
3	関数2	戻り値とは何かを理解し,戻り値をもつ関数についてのコードが書けるようになる.
4	演習	これまでの演習を行う.
5	構造体1	構造体の基礎を理解し,これを用いたコードが書けるようになる.
6	構造体2	構造体を用いた応用的なコードが書けるようになる.
7	演習	これまでの演習を行う.
8	中間試験	授業計画1~7までの試験を行う.
9	試験の解答	試験の解答を行う.
10	ファイルの処理1	ファイル操作についてのコードが書けるようになる.
11	ファイルの処理2	前回に引き続き,ファイル操作についてのコードが書けるようになる.
12	演習	これまでの演習を行う.
13	C言語プログラミングの応用1	これまで学習したプログラミング技法を利用し,専門的な課題をC言語で解決できるようになる.
14	C言語プログラミングの応用2	前回に引き続き,専門的な課題をC言語で解決できるようになる.
15	演習	これまでの演習を行う.
16		
17		
18		
19		
20		
21		
22		
23		
24		
25		
26		
27		
28		
29		
30		
備考	前期中間試験および前期定期試験を実施する.	